



事がありました。

一、秋には播州福崎の山へ全員菖狩りに出掛ける事、ここは店の日野様の郷里で兄さんが村長さんであった関係で、一番よい山を村の有志大勢で山上牛肉のスキ焼の御食宴に世話して下され、手折った松茸は一同の土産やら東京支店や得意先へ配る程沢山で、ここから直送しました。

一、春先には須磨の金子様の前庭で家族一同の運動会をする事店運の飛躍大发展に連れ優秀なる人材が各方面から、又高商等の英才がどんどん入店して寄宿舎が必要になりました、滝道の山腹のオリビアホテルを買収して立派な設備をしました。店の方も交換手を雇入れて電話室を作り、寝室を全部事務所に、下の方の位置を事務室に大改造しました。この頃店の輸出部の別動隊として二十年も経験のあるポップさんを雇い入れ、日本商業会社を設立し、鈴木から香川様と私の二人が転任してカネ辰をはなれました。鈴木で扱ってない米銅と印度向けのメリヤス雑貨の輸出と、棉花洋反物鉄材等の輸入を取りました。あとで輸入部は大阪に移り、私と外二名が輸入の手手続き等代行しました。

## 米騒動の記

禍福はあざなえる縄の如く、人間の幸不幸はいつも同時に来るもので、好況の裏には必ず不況がついているものだが、鶴蚌相争うて計らずも漁夫の利を得た日本は、別に先見の明があった訳でもなければ、また特に人一倍の努力をしたのでもないのに、歐洲大乱勃発のために忽ち黃金の洪水が押し寄せ、俄かに粗製濫造の群小成金が簇出台頭し、外には日英攻守同盟の条約によって独逸に宣戦を布告したお蔭で膠州湾や青島を占領し、さらに地中海にまで進出して日本海軍の威力を宇内に輝かし、戦争景気に拍車をかけた折しも、大正天皇御即位の大典に次ぎ、廸宮裕仁親王立太式の大礼が行なわれ、つづいて播磨平野に陸軍大演習などあり、ために人気はいやが上にも沸騰したのである。

かかる間に神戸市はこの好況に乗じて神仙寺、中島、築地、野崎、上筒井、坂口、宮本、大日、割塚など

その間神戸時代みるめ沖合で火薬を積んだ船が朝食の仕度の火が移つて六時頃爆発した時、私達はオリビアでふとんの中でしたが一里以上距

っているのに爆風でガラスは殆ど破れ破片がふとんの上、頭の上に降り込んで来後掃除が大変でした。市中も各方面でガラス板、屏等の被害甚大で太平の夢一朝にして破れました。(脇浜別荘の被害も甚大でした)

又コソ泥が毎晩の様に市中を横行し、十回二十回と同じ手口の犯人を逮捕出来ず、非難ごうごうに答えて、私等も夜分八時過ぎオリビアに帰る道で度々訊問を受け真犯人の出現を、今の三億円事件の様にさわいだものでしたがコソ泥はやっぱり捕えられました。

段々と老若優秀の人材がどしどし入店する盛況で、私は大阪の砂糖部に転任しました。其の前年大阪の北区から朝出し火し、強風の為め昼頃益々拡がるのを、神戸から見舞に来て福島で降ろされ、鎮火後神戸へ無事に帰ったのは十時頃でした。

神戸時代金子様からお呼びとの事で二階へ行くと、私が四十年四月から十月まで勤務していた香港製粉会社の技師長の米田竜平様がそこに居られるのに驚きました。会社が倒産

して銀行からの売込中の事、米田様と私が事情を伝えましたところ、縁あって鈴木が之れを買取り、機械を大里に運んで大里製粉所として発足活動し、米田様も技師として勤務せらるる事になりました。

約五年の神戸の生活は書く事はいくらでもあります、八十一年の

いわゆる事は、神戸時代甲山、六甲山、摩耶山、再度山其他西の方明石の奥山へ幾十回と知れぬ登山で、知らず知らずの内に鍛えたお蔭です。歩く事は健康の一条件です。皆様におすすめして終りとします。

(四四・五・二五)

## 因暮心情『さえわたる石の音』



京大教授東昇さんの話に依ると碁好きは高段者に限らず、素人でもよい碁盤とそれにつり合つたよい碁石を手に入れたがる。盤の最高は日向のカヤの柾の六寸盤、石の最高は白石は日向の蛤、黒石は那智黒、厚み三分五厘、この厚みをこすと、石の音、それだけで碁の強さがわかるといわれる。京都府下久世郡久御山町政田太一氏藏の盤は大徳寺塔頭の秀吉、家康対局の碁絵盤と同時代作、碁盤は甲斐の水晶づくり、江戸中期の作と推定されている。目に見えてはいかにも美しいがこの石とこの碁盤とで構成される石の音はいわずきびしい碁の世界、芸の世界が演出されようか。

の各通りを新設すると共に、從来民間会社の經營であった市街電車および電燈、電力の事業を買収して電気局を設け、民間では鈴木商店の金子直吉が、單身米国大使館に乗り込んでモリス大使と膝詰談判の結果、当時世界的払底を告げていた船腹の不足を緩和すべく、米國から鋼材を輸入して日本の設備と技術を以て船舶を建造するという日米船鉄交換問題を成約したので、大戦景氣はいよいよ最高潮に達し、また川崎造船は葺合港湾を埋めたてると共に、一万七千三百坪を買収して設備を増設し、神戸製鋼もまた脇浜地先を埋め立て共に工場を拡張し、なおそのほか野沢石綿、神戸衛生実驗所(ビオフレルミン製薬の前身)、阪神鉄工(現在の阪神内燃機)、川崎汽船、乾汽船、三ツ星調帶および川西機械新会社が続々と設立され、世はまさに総花式成金時代となつたのである。

前述のとおり内には諸般の施設を整えて都市計画を進め、外には大きい市地の地域は拡大充実し、年々歳々近郊近在の町村を合併編入する傍らに於て河海の埋立、溜池の廃止などに需要を宣揚するに伴い、逐次神戸に国威を宣揚するに伴い、遂に神戸市地の地域は拡大充実し、年々歳々近郊近在の町村を合併編入する傍らに於て河海の埋立、溜池の廃止などに

莫大な供給不足を告げんとする傾向があつたので、急遽全国の期米市場に立会停止を命じたり、暴利取締りを強化して、大阪の岡半や増貫などに警告を発する一方では、神戸の鈴木商店に命じて朝鮮米、蘭貢米の輸入を指定し、頻りに米征抑制に全力を注いだが、これが反つて大衆に不安を与えて逆効果を齎し、ついに白米一升が勿驚大枚金五十八錢也と驟進狂騰したので、越中滑川の漁師の女房達が昔からの慣習により「殿わし方」という最後の手段に訴えたのが導火線となり、これが世に謂う所の米騒動となつて全国に燃え拡がつたのである。けれども七年も八年も有史以来の超豊作がつづいて、その不合理的な統制に依り、白米一升が百五十円以上という笠棒な値段で配給を受けながら、なお耐え難きを耐え忍び難きを忍びつつ黙々として弱音をあげない良識(?)をもつ現代の紳士淑女には、寧ろ却つて不思議な感じを与えるであろう。

しかしながら斯うした無智文盲な賤ケ女たちの井戸端会議ならぬ共同水道脇の寄り合いから狼火(のろし)が上がつて、俄かに全国に米騒動が蔓延したので、神戸では逸早くこの米騒動に立騒ぐ細民の妄動に